

力を合わせ、大震災から立ち上がろう

5月12日に四川省で起こった大地震は日本の皆様にとっても未だ記憶に新しいことと思います。

地震当時には事務所でも数分の間揺れを感じ、全員近所の公園に避難しました。

この地震で、北は北京から南は台湾まで国土の3分の1以上の場所で体を感じる地震があり、6月末までの統計によると死者は6.9万人超、失踪者約1.9万人、負傷者約38万人、震災でなんらかの影響を受けた人は4624万人以上と発表されています。

中央政府は地震発生後7日目の5月19日～21日の3日間を「中国哀悼日」とし、全中国国民は地震発生時刻の午後14時28分から3分間、黙祷を捧げ全被災者へ哀悼を示しました。

武漢市のある湖北省と四川省は地理的に近く、互いに古くから親しみをもっています。武漢市民自身も98年の大洪水や昨冬の大雪害に見舞われましたが、この隣人の被災にこのほか心を痛め、政府機関から幼稚園まで至る所で募金活動や献血活動が展開されています。



武漢市での義捐金募集風景

武漢市の支援指定地は四川省の雅安市漢源県という都市です。地震でほぼ廃墟となり、仮設住宅の建設や生活インフラの復旧は急務です。武漢市は救援指揮部を立ち上げ、地震発生後の4時間後には医療チームを、翌日には地震、消防、医療、防疫、通信、建築など各分野の専門救援チームを現地に派遣しました。3日後には、救援物資が到着、現在も雅安市再建の為に資金

と物資の調達に尽力しています。

民間企業、ボランティアの活動も活発です。現地で救援活動を行うほか、武漢に移ってきた負傷者の介護と心理治療などに湖北省・武漢市ボランティア協会がボランティアを募集したところ、500人の枠に数千人の申込みがありました。

武漢日本商工会事務局は武漢在住の日系企業、日本人に向けて「四川大地震・義捐金募集」を強力に呼びかけました。日系企業の中には、会社設立5周年のイベントを取りやめ、寄付金と支援物資の提供にあてたり、ボランティア救援チームを組み、現地で救援作業を展開するところもありました。武漢在住の日本人駐在員たちは、それぞれ個人でも寄付をしながら、地震の防災知識の宣伝にも熱心です。



武漢市での義捐金募集風景

大分市長から武漢市長に見舞いの信書が届き、雅安市の復興にも大分市の皆様から10万元以上の寄付を頂きました。武漢が大分に派遣している農業研修生と、その受け入れ企業からも多くの寄付が寄せられています。

人の愛に国境はありません。地震が発生して以来、世界各国から救援や寄付がありました。5・12四川省大地震の被害は甚大ではあるけれど、全世界67億人の協力と救援を受け、被災地区は必ず立ち上がって故郷の再建と復興を果たし、世界に新しい四川を披露できる日が来ることを信じています。